



枝川小だより

やればできる
自分で考え、行動し、
決める場面を多く設定しよう

秋の恵みを自分の手で～落花生の収穫体験～

10月17日（金）、3・4年生の児童が中心となって育ててきた落花生の収穫を行いました。校務員の寺門さんのアドバイスを聞きながら土の中で育つ落花生を丁寧に掘り出す作業に挑戦しました。子どもたちは、「花が咲いた後、土の中で実が育つんだ」と驚きながら一粒一粒を大事そうに取り出していました。



収穫した落花生は茎から取り外し、新聞紙の上で乾燥させました。子どもたちは「土の中ってこんな風になってるんだ」「自分で掘ったからおいしそう」と、笑顔で収穫の喜びを味わっていました。

この体験を通して、作物を育てる大変さや手間を実感するとともに、食べ物を大切にする気持ちが育まれました。秋の恵みを自分の手で収穫する楽しさを感じた、思い出に残る時間となりました。

伝統工芸にふれる～ものづくり教室「組子製作」～

10月23日（木）の3・4校時、2～6年生の全校児童を対象に、県職業能力開発協会主催「ものづくり教室『組子製作』」を実施しました。当日は、現役の木工職人4名の方を講師としてお招きし、組子細工のコースターづくりに挑戦しました。組子とは釘を使わずに木を組み合わせて模様をつくる日本の伝統的な木工技術です。児童は、木の香りを感じながら、細かな部品を丁寧に組み合させていきました。完成したコースターは「麻の葉」と呼ばれる雪の結晶のような美しい形に仕上がり、子どもたちは達成感に満ちた表情を見せっていました。



活動後のアンケートでは、「とても楽しかった。またできたらやりたい。」「いろいろ難しかつたけれど、いいのができて楽しかった。職人さんはすごいと思った。」などの感想があり、伝統工芸の魅力や職人の技のすばらしさを実感した様子です。普段の生活ではなかなか触れることのできない伝統の技を体験する貴重な機会となり、ものづくりの楽しさや日本の文化への関心を深めることができました。

昔の暮らしに思いをはせる～はにわ展見学～

11月7日（金）の午後、4～6学年の児童が社会科学習の一環として「ふるさとのはにわと土器展」見学を市毛コミセンで行いました。会場には、さまざまな形や大きさの土器や埴輪がずらりと並び、子どもたちは「こんな表情をしているんだ」「どうしてこういう形なのかな」と、目を輝かせて見入っていました。埴輪を間近に見て、大きな驚きと発見につながりました。特に印象的だったのは、国指定史跡の虎塚古墳石室の壁画に関する展示です。色鮮やかに描かれた模様や、当時の人々の祈りや願いが込められたとされる文様について、市毛コミセンの大越様や枝川自治会の川又会長の説明を熱心に聞いていました。「本当にこんな絵が古墳の中に残っていたなんてすごい！」という声が上がり、古墳時代への興味が一段と深まったようです。



二中学区内の遺跡から発見された土器の展示では、「自分たちが住んでいる地域にも、こんなに歴史があるんだ」と驚く児童がたくさんいました。実際に出土された土器を間近で観察したり、レプリカに触れたりしながら、当時の人々の生活の知恵や思いを想像することができました。